



分類：炭酸塩鉱物
化学組成： $\text{Cu}_2(\text{CO}_3)(\text{OH})_2$
産地：コンゴ民主共和国
GSJ M40332

孔雀石は緑色が鮮やかな鉱物で、銅鉱床の中に産するもっとも一般的な銅鉱物の一つです。黄銅鉱などの銅を含む一次鉱物が環境の影響により変化して作られるもので、このような鉱物を二次鉱物といいます。サビた銅が示す緑青も孔雀石と同じ成分です。

孔雀石の名前は、孔雀の羽のような縞模様の断面から付けられたとされます。細かく砕いた粉末は、化粧用のアイシャドーにも使われるほど美しい緑色を示します。日本でも多く産出し、岩絵具の「岩緑青」として日本画や浮世絵に使用されたほか、顔料としてはクレオパトラがアイシャドーとして使用したとされます。また、花火の発色剤にも使用されます。岩絵具としては現在も使用され、すりつぶした粒の大きさで色の濃淡を使い分けられます。粒が大きいと色が濃く、小さいと淡い色になります。

地質標本館では、第4展示室と2階の青柳鉱物標本で、独特な形ときれいな緑色の孔雀石をご覧いただけます。青柳鉱物標本にあるこの孔雀石(GSJ M40332)では、割れた断面に特徴的な縞模様が見られ、透明度がなく濃淡のある緑が独特の風合いをまとっています。第4展示室には、腎臓状と呼ばれる特徴的な形態をした迫力ある大きな標本と、縞模様が見事な標本が展示されています。これらと比較しながら観察してみるのもよいでしょう。

※「くじゃくいし」ともいう

(地質標本館室 武井勇二郎)